

千代田区災害対策事業計画（平成 30～36（2018～2024）年度）（案）に対するご意見と区の考え方

No.	意見者	該当箇所	意見内容	区の考え方
1	在住者 1	全般的事項	<p>現在千代田区番町地区で日テレ通り再開発の計画が進んでおり高層の商業ビル計画があります。もしこの日テレ計画で高さ制限を緩和し、商業ビルが建つと、車両交通量が大幅に増加し昼間人口もかなり増えることとなります。番町のメイン道路は片道一車線の日テレ通りで駐車スペースもほとんど無く、他は狭い一方通行道路ですので、災害時には大渋滞となり救急車、消防車も入れない事態が想定されます。区は果たして責任を持った防災対策はとれるのでしょうか？</p> <p>日テレ通りの再開発の件と合わせて災害対策もご検討をお願いいたします。</p>	<p>ご意見として、今後のまちづくりの参考にさせていただきます。</p>

No.	意見者	該当箇所	意見内容	区の方考え方
2	在住者2	全般的事項	<p>番町・麴町地区は、日本テレビ通りでも、片道一車線の双方向道路で、都バスの通るバス通りであり、バス停にバスが通常と停車をするだけで、都バスの後ろに渋滞が発生します。追い越そうとすると、対向車線も渋滞します。両側からその通りと交差する道も、並行する道も、二七通り、番町文人通り、番町学園通り、番町中央通りなど、いずれも、道幅が狭く、一方通行も多くなっています。</p> <p>これらの道々の道幅を広範に広げることは現実的でないなかで、現在の道路が、災害時に、有効に使われて、緊急車両等の進入が安全に速やかに行える、或いは、人々が速やかに安全に避難できる状態が維持されることが重要と考えます。</p> <p>局地的に広場を設けることも、周辺後背地で、渋滞の発生が発生する状態では、意味をなしません。再開発を進めるに際しても、防災の観点から、今以上に、多くに人や車が集まってくるような状態に繋がる、高さ制限や容積率の緩和は、実施しないことが重要です。</p> <p>また、昨今の災害の激甚化による、ビル風の烈風化や、ガラスの壁や窓の破損が発生しております。その観点から、超高層ビルや巨大建築物の建設を可能にする高さ制限や容積率の緩和の封印や、外に面して多くのガラスを使用する建物の建築を制限することが、番町・麴町地区のような地域の災害対策には、何よりも重要で、本質的に必要なことと思料します。</p>	<p>ご意見として、今後のまちづくりの参考にさせていただきます。</p>

No.	意見者	該当箇所	意見内容	区の考え方
3	在住者3	全般的事項	<p>旧耐震基準の建築物の建替えは急務であるが、超高層・高層への建替え、容積率の緩和には慎重であるべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・超高層・高層ビルの火災時の対策が確立していない。 ・周辺道路の幅員が狭いところでは高層建築は禁止すべきである。収容人数と幅員が合わず、渋滞、緊急車両が到達できないなどの惨事になる。 <p>*日テレ本社後に高層ビルが予定されていると聞けるが、日テレ通りおよび側道の道路幅員が狭いだけでなく、麴町駅の収容力が小さいため、災害時には異常事態が起きる可能性がある。高層化は認められるべきではない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長周期振動対策も技術的にできていない。建築に被害がなくてもパニックになる人間が出るが救助が間に合わない恐れがある。(東日本大震災で続出した) ・千代田区はすでに人口が急増しており防災対策が追いついていない感がある。人口抑制を検討する段階にある。 ・帰宅困難者の受け入れ、公開空地などを容積率緩和の交換条件としてはならない。 	<p>防災計画策定の促進や訓練の支援等高層住宅における防災対策を進めてまいります。</p> <p>また、まちづくりに関するご意見は、今後の参考にさせていただきます。</p>

No.	意見者	該当箇所	意見内容	区の考え方
4	在住者4	全般的事項	<p>現在、日本テレビ通り沿いの地区で超高層ビルの建設を認めようとする計画が進んでいるが、この通りは片側1車線ずつ2車線しかしかない。</p> <p>もし超高層ビルが立つと強風が吹き抜け、折れた木の枝のような物が飛んで来たり、歩行者が煽られて怪我したり、というようなことが起こるかもしれない。</p> <p>また東京に30年以内に来るとされる大地震が起きたことを想像すると、多くのけが人や火災も想定しなければならない。救急車や消防車が現場に来るのにも、またそこから必要な場所に移動するのにも、2車線しかない道が渋滞で、あるいは乗り捨てられた車でふさがっていたら、救える命も救えなくなってしまうだろう。</p> <p>千代田区の災害対策事業では亡くなる人や怪我をする人を少なくすることに主眼が置かれているようだ。災害は起こるものだ、と覚悟を決めているということだ。</p> <p>では今ある2車線沿いに超高層化ビルを建てる許可を出すことに慎重になることは、現在考えられる最も効果的な対策になるのではないだろうか。</p> <p>それから先日の台風では電柱が強風で倒れ建物を直撃するというニュースがあった。また切れた電線が火災の原因になっていた。小池知事が公約した事でもあるし、電柱の地下化を早く推進した方が良いと思う。</p>	<p>災害時における電力の安定供給のため、電線の地中化を計画的に推進してまいります。</p> <p>また、まちづくりに関するご意見は、今後の参考にさせていただきます。</p>

No.	意見者	該当箇所	意見内容	区の考え方
5	在住者5	全般的事項	<p>余計なことかもしれませんが、現在、日本テレビ再開発で（超）高層ビルの建設が予定されていると聞いています。もし、現状の再開発案のまま進んでしまうと何千人ものオフィスワーカーが働くことになり、駅、車道、歩道の混雑は通常時でも大変なことになることは間違いありません。ましてや、緊急避難時には言うに及ばずです。危機管理の観点、区民の安全を守るという観点からも、日テレ開発計画は十分に精査検討していただきたいと強く望みます。</p>	<p>ご意見として、今後のまちづくりの参考にさせていただきます。</p>

No.	意見者	該当箇所	意見内容	区の考え方
6	在住者6	全般的事項	<p>東京は世界でもトップの安全な都市ですが、自然災害のリスクだけは極めて大きく、その点をどのように最小化するかがポイントだと思います。</p> <p>先日の台風 24 号のような風速 50mクラスの暴風により、千代田区においても倒木が何か所もあり、中央線は長時間ストップし通勤者に大きく影響しました。また、東日本大震災を経験し、それから7年半も経過しているにもかかわらず、そして首都直下型の地震がいつきてもおかしくないにもかかわらず、対策が不十分であり、目標や計画を立てつつ、同時に実際に減災へ向けた活動をしていくべきではないでしょうか。</p> <p>また、高齢化社会を迎えているにもかかわらず高齢者や障がい者などに対する対策が不十分ではないでしょうか。</p> <p>千代田区で暮らし、働き、そして学ぶ人々一人一人がしっかり認識できる形でリスクを開示し、その対策を示すことで減災へ向けてた取り組みがより実りのあるものとなると考えます。</p> <p>また、大手町、丸の内、有楽町などの開発を進め超高層ビルを抱える千代田区は大地震とそれに伴う火災の対策を十分に行う責任があります。世界の金融の拠点東京へ戻ってくる為には、自然災害に対するリスクをどれだけ減らすかがポイントと考えます。</p> <p>また、私の住む番町地域は、現在は超高層ビルもなく、非常に安全なエリアであり、住宅地として人気で</p>	<p>区民等への周知については、防災意識の普及啓発のため、広報紙への掲載や防災パンフレット等の作成などを更に努めてまいります。</p> <p>訓練の実施については、各自主防災組織が行う訓練の支援をさらに実施してまいります。</p> <p>要配慮者対策については、避難行動要支援者名簿により、要配慮者の救援・救護が円滑に行えるよう、実践的な救護体制を更に整備してまいります。</p> <p>建築物の規制については、ご意見として、今後のまちづくりの参考にさせていただきます。</p>

No.	意見者	該当箇所	意見内容	区の考え方
			<p>す。世界トップの都市には、それに相応しい住宅地もセットです。安全な住宅環境の保全のために行政としてしっかり対策をしていただくようお願いいたします。</p> <p>求めるものは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ●徹底した広報で千代田区の在住、在勤、在学者に災害時のリスクの開示とその対策を示す。 ●マンション、企業、学校法人などが連携して隔月の防災訓練の実施し、協力しあえる関係を築く。 ●行政が高齢者や足腰の不自由な方、障がい者を把握し、その人たちに対する対策も実施。 ●建築物の規制。減災の為の補助の実施。 ●これらの実施の為の予算の確保。 <p>以上です。</p>	

No.	意見者	該当箇所	意見内容	区の考え方
7	在住者7	全般的事項	<p>意見1) 帰宅困難者を減らすために一番簡単なのは、昼間人口をこれ以上増やさないことだと思います。千代田区は23区で唯一指定容積率を100%使いきっており、夜間人口と昼間人口の差は他の区とは比較になりません。</p> <p>意見2) 千代田区政を見ても、東京都の方針を見ても、人口減少社会に突入しているにも関わらず、未だに容積率を緩和して新しい大きな建物を建てる街づくりを志向しています。道路や駅といった交通のインフラが変わらないところに過容積のまちづくりを行うと、域内流入人口が増え、帰宅困難者を増やすばかりか、平常時から道路を人や車が塞いでしまい、緊急車両の通行にも支障を来たすことになるのではないのでしょうか？</p> <p>救急・防災の観点からも、容積率アップ、過容積の街づくりには歯止めをかけるべきと思います。</p> <p>意見3) 先般の大型台風が都内直撃したことにより、多くの木が倒れ、中央線が不通になるなど大きな影響が出たことは記憶に新しいところですが、こうした巨大な台風は、地球温暖化の影響で毎年のように起こると考えるべきで、強い風をさらに強くする高層、超高層建築は、千代田区内にこれ以上作るべきではないと考えます。</p>	<p>ご意見として、今後のまちづくりの参考にさせていただきます。</p>

No.	意見者	該当箇所	意見内容	区の考え方
8	在住者 8	全般的事項	<p>富士見町には住居棟とオフィス棟がセットになった超高層ビルが2棟できました。この地域は小中学校や大学があり、まだ住居も多くある地域です。</p> <p>これから人口が減っていく時代に超高層を可能にする容積率や高さの規制緩和をすべきではないと思います。台風の時にはまっすぐ歩けないほどの強風ビル風が吹きます。超高層ビルを建てることで、広場を作るということですが、大地震の時にはガラスの超高層ビルの広場はとても危険です。</p> <p>富士見児童館エリアでも再開発組合が立ち上がっていますが、これ以上超高層ビルの危険なまちにしてもらいたくありません。</p> <p>超高層ビルができて、昼間人口が増え、人があふれています。災害時にどうなるのか不安です。</p> <p>千代田区では、市ヶ谷の日テレ通りも規制緩和して、超高層ビルの建築を可能にする計画があります。日テレ通りは幅員も狭く、両側に超高層ビルが建ったら、飯田橋以上に危険です。危険をほらむ規制緩和すべきではありません。</p> <p>千代田区には小学校が8校と中学が3校あります。私立学校も多く文教地区になっています。文教地区や住宅地域が広がる地区は道路幅員に見合った高さや容積の建築で、災害時にも安全で住みやすいまちを目指してもらいたいです。</p>	<p>ご意見として、今後のまちづくりの参考にさせていただきます。</p>

No.	意見者	該当箇所	意見内容	区の考え方
9	在住者9 在住者10	全般的事項	<p>言葉は判りやすく明確に表現すべき、専門家の言語では一般の避難者、帰宅困難者への理解が進むとは思えません。</p> <p>「要配慮者」「避難行動要支援者名簿」等、役所用語が多く使われている、住民は訓練を受けた方が多い訳が無い事への無理解を感じる。</p>	<p>「要配慮者」とは発災前の備え、発災時の避難行動、避難後の生活などの各段階において特に配慮を要する者を言い、「避難行動要支援者」とは要配慮者のうち、円滑かつ迅速な避難の確保を図るため特に支援を要する者を言います。</p> <p>ご指摘を踏まえ、「要配慮者」、「避難行動要支援者名簿」について、用語の説明を記載いたします。</p>
10	在住者9 在住者10	II 計画の概要 1 千代田区の特性と課題 6) 要配慮者対策	<p>6) 要配慮者対策の中での表現 III ノーマライゼーションの考え方とは何を指しているのか？違いを吸収して全体を均一化で在るなら、表現はもっと一般的な表現にすべき。横文字を重要しては読む方の理解は出来ません。ノーマライゼーションの考え方では無い点。</p>	<p>ここで言う「ノーマライゼーション」とは、障害のある人もない人も、互いに支え合い、暮らしていくことを示しており、災害時に必要な情報伝達や施設整備についての課題として記載しております。</p>
11	在住者9 在住者10	II 計画の概要 2 減災に向けた施策目標	<p>減災に向けた施策目標で死者を6,000人減少ですが、災害時の死者の収容場所が何箇所なのか？何処の場所を当てる計画なのか？</p>	<p>減災に向けた施策目標に記載している死者6,000人減少とは東京都全体での数字を示しております。遺体収容所は区の地域防災計画、千代田万世会館及び内幸町ホールの2箇所です。</p>
12	在住者9 在住者10	II 計画の概要 2 減災に向けた施策目標	<p>避難所と帰宅困難者を分ける施策が解らない、来訪者への対応方法が各避難所開設時にマニュアル化されてない点。</p>	<p>千代田区では「帰宅困難者対策」を重要課題ととらえ、取り組んでおります。また、災害時には区民のための施設として、避難所を開設いたしますが、来訪者への対応については、ホームページで公開している、避難所運営マニュアルに記載しております。</p>

No.	意見者	該当箇所	意見内容	区の考え方
13	在住者 11 (賛同者 2 名 含む)	II 計画の概要 4 施策の目標と取組み 死者数(災害関連死含む)減少への施策目標 1 建築物等の耐震化促進	マンションの老朽化問題の解決は、災害対策に直結します。東日本大震災以前に決定された千代田区の地区計画が、その地区のマンションの建替えの足かせになっていることは明らかです。何よりも「人命」を優先し、地区計画を変更するとともに、総合設計制度を有効に利用し、地域貢献に基づく容積等の緩和を促す、“まちづくり”を行い、耐震不足のマンション建替えの促進を、行政の指導で積極的に行ってください。そうすれば、耐震不足のマンションの倒壊、それによる交通路の遮断を回避でき、自然災害による被害を少なくすることができます。	計画に基づき、耐震基準を満たしていない建築物の耐震診断や耐震改修を行う場合の費用を助成する等、耐震化促進に努めてまいります。 また、まちづくりに関するご意見は、今後の参考にさせていただきます。
14	在住者 3	II 計画の概要 4 施策の目標と取組み 死者数(災害関連死含む)減少への施策目標 2 道路・公園等の防災対策の推進	街路樹、公園の植栽が伐採されており、水はけが悪化している。千代田区の緑被率が高いのは皇居によるところが大きく、一般地区は土壌の露出面が極端に少ない。街路樹の整備が防災上も急務である。(広義には熱中症予防も防災対策の対象であり、この面からも植栽を進める必要がある。)	公園や街路樹の整備については、防災機能の向上も含め地域特性やニーズに即し、総合的に勘案しながら取り組んでまいります。

No.	意見者	該当箇所	意見内容	区の考え方
15	在住者 3	II 計画の概要 4 施策の目標と取組み 死者数(災害関連死含む)減少への施策目標 2 道路・公園等の防災対策の推進	市ヶ谷の橋の安全性について：橋の飯田橋方向の歩道はすれ違いが難しいほど狭く、一方が堀、片方がガードレールで災害時には逃げ場を失う人が出る。たとえば車両火災があっても逃げようがない。また橋の耐震性は確認されているか。	区内の橋梁については震災時の避難や物資輸送経路を確保するため、耐震基準に基づき詳細な調査と点検を実施し、補強、補修を計画的に進めています。
16	在住者 9 在住者 10	II 計画の概要 4 施策の目標と取組み 死者数(災害関連死含む)減少への施策目標 2 道路・公園等の防災対策の推進	道路・橋梁・河川等の安全対策の中で、道路の安全対策に触れて無い、橋だけが対象で無く基幹的な道路で 22m 以上の道路は車線確保の為に 2 車線以上必要で、対象の道路状態が明確に書かれてない点。	ご指摘を踏まえ、「災害時の緊急輸送活動を円滑に推進するため、区が管理している道路の整備、橋の耐震補強、(中略)～を行う。」に修正いたします。
17	在住者 3	II 計画の概要 4 施策の目標と取組み 死者数(災害関連死含む)減少への施策目標 2 道路・公園等の防災対策の推進	堀の安全性：堀を利用せざるを得ない場合、水上を通らざるを得ない場合も想定し、水質、降り方も検討対象とすべき。新宿区との連携が必要。	現在のところ、水上ルートとして、堀の活用は想定しておりません。

No.	意見者	該当箇所	意見内容	区の考え方
18	その他計画等に利害関係を有する者1	II 計画の概要 4 施策の目標と取組み 死者数(災害関連死含む)減少への施策目標 4 救出・救護体制の強化	<p>平常時からの見守り体制の構築については、その構築方法をより明らかにし、具体的な行動計画を策定するべきであると考えます。</p> <p>具体的には、I o Tの発展に伴い、廉価でかつ要配慮者にも直感的に利用できるようになった、LPWAなどの通信システムを活用した先進的な地域見守りシステムを安価に運用するための調査・研究に着手することが適当だと考えます。</p>	<p>避難行動要支援者の安全確保のため、避難行動要支援者の安否確認や避難介助等の体制づくりについて、より効果的な手段を検討してまいります。</p>
19	その他計画等に利害関係を有する者1	II 計画の概要 4 施策の目標と取組み 死者数(災害関連死含む)減少への施策目標 7 職員防災力の向上	<p>千代田区職員は区外在住率が高いという事実が「千代田区の特性と課題」(p3)にも指摘されています。それゆえ区職員の勤務時間外には、エリアメールを受け取れない可能性も懸念されます。</p> <p>また、安全/安心メールは一般のインターネットメールであるため、現実に配送遅延発生リスクが高いことが指摘されています。あわせて、ブラックアウト(広域停電)などの事態においては有効ではない手段であることを露呈します。移動系防災行政無線やMCA無線機の職員配布には数に限りがあることから、放送波など対障害性の高い手段を併用することを検討し、停電時にも有効な職員向け情報伝達ツールを確保することが求められていると考えます。</p>	<p>夜間・休日に発災した場合に備え、管理職及び災害情報対策員による警戒待機を行うとともに、職員はメール等による通知によらず、参集基準に基づく自動参集により、体制確保に努めてまいります。</p> <p>また、技術の進歩による情報伝達については、今後も検討を進めてまいります。</p>

No.	意見者	該当箇所	意見内容	区の考え方
20	在住者9 在住者10	II 計画の概要 4 施策の目標と取組み 死者数(災害関連死含む)減少への施策目標 7 職員防災力の向上	「7 職員防災力の向上」と表現されているが、区職員の何割が区内に住居が在るのか？多くの区職員が区内に住める施策が行われて無い点。隣区の中央区に住んでいる職員もいる様だ。	職員態勢の強化については重要であると認識しており、災害対策用職務住宅の確保、勤務時間外における警戒勤務者や災害情報対策員の配置、職員住宅居住職員を非常災害対策要員として応急対策活動に従事させるなど、警戒態勢確立に努めております。
21	その他計画等に利害関係を有する者1	II 計画の概要 4 施策の目標と取組み 死者数(災害関連死含む)減少への施策目標 8 避難者支援体制の強化	避難所における災害時の情報不足に対応する情報機器の整備について明示されておりません。特に一時避難場所として指定されている民間ビル等においては、情報不足からビル管理者に対する問い合わせが殺到することが現実的に懸念されます。 4ページ7) 帰宅困難者対策の項には「帰宅困難者対策は(中略)「むやみに移動を開始しない」ことの徹底を図っていくことが不可欠です。」との記載もありますが、そのためには場所ごとに、まずは正確で十分な量の区からの情報を供給することが必要です。区発信の情報を一斉に提示可能な防災デジタルサイネージ等の機器の配置することが有用であると考えます。	避難所及び帰宅困難者一時受入施設と災害対策本部との連絡体制確保のため、各施設にMCA無線機を配備することにより、情報提供を行います。 ご意見として、より有効な災害情報の収集・伝達手段の検討の参考にさせていただきます。

No.	意見者	該当箇所	意見内容	区の考え方
22	在住者 12	II 計画の概要 4 施策の目標と取組み 死者数(災害関連死含む)減少への施策目標 8 避難者支援体制の強化	<p>◆各地区に設置している「防災倉庫」の点検と再整備 当初の計画と異なり、必ずしも十分な防災用具・用品が備蓄されているとは思われない。本当に役立つのか心許無いので、点検が必要と考える。</p> <p>◆公共施設における防災用品の備蓄方法 地下の空きスペースに備蓄されているケースが散見される。水害に備えて安全な上の階に移さないと、いざという時に役立たない。</p> <p>◆簡易テント等への補助 被災時は各自が対応できるよう、簡易テント等の配布ないしは補助制度を検討してほしい。</p>	<p>避難所や公共施設等に災害対策用の備蓄物資を配備しています。避難所等には、3日間を過ぎせるだけの食料や生活必需品、医薬品など避難所運営用の資器材を整備しています。また、食料など有効期限がある物資については、有効期限到来前に入れ替えを行うとともに、資器材類について必要な点検を実施しております。</p> <p>公共施設における備蓄倉庫スペースについては、施設整備時に各施設の事情を踏まえ、総合的に勘案して配置しているため、ご意見として、参考にさせていただきます。また、既存施設については、備蓄物資の分散配備を図っています。</p> <p>簡易テント等への補助については、ご意見として、参考にさせていただきます。</p>
23	在住者 13	II 計画の概要 4 施策の目標と取組み 死者数(災害関連死含む)減少への施策目標 8 避難者支援体制の強化	<ol style="list-style-type: none"> 1. 緊急避難地域が九段小学校になっているが、長期間工事中であった。災害はいつ起きるか分からないので常に現実にそって検討しないといざとなったら困る。 2. 最近の災害の状況を研究し、役に立つ情報を分かる形で提供すべき。例えば、最近の話題は、災害時に頼るのはスマホ。従い、スマホの充電とバッテリー消費軽減策を提供すべき、など。 3. 緊急避難場所における備蓄品とか緊急時設備(スマホ電源とか)の概要情報提供して欲しい 4. 各緊急避難場所想定避難者数情報も欲しい 	<p>避難所の改築時には代替避難所を定めております。九段小学校の改築時には、九段中等教育学校及び番町小学校を代替避難所と定めておりました。</p> <p>情報提供については、近年の災害状況を整理し、必要に応じて情報提供を行ってまいります。なお、各避難所には非常用発電機を備えております。</p> <p>避難所における備蓄品等については、各避難所防災訓練の際に備蓄倉庫を見学していただく等の対応を行っております。</p> <p>各避難所の想定避難者数については、様々なご意見を踏まえ、今後区ホームページにて情報提供を行う予定です。</p>

No.	意見者	該当箇所	意見内容	区の考え方
24	在住者 3	II 計画の概要 4 施策の目標と取組み 死者数(災害関連死含む)減少への施策目標 8 避難者支援体制の強化	<p>伝染病予防策も防災の対象ではないか。し尿処理、廃棄物処理が滞ること、伝染病の発生も想定しなければいけない。保健行政と分断してはいけない。</p>	<p>避難者の健康管理や健康相談・感染症予防などの診療等を行う等災害時の医療体制を整備しています。</p>
25	その他計画等に利害関係を有する者 1	II 計画の概要 4 施策の目標と取組み 死者数(災害関連死含む)減少への施策目標 9 要配慮者対策の推進	<p>聴覚障害者に対する情報提供、あわせて外国人に対する情報提供に於いて、日本語の音声のみに依存する避難所運営は重大な支障があったことが1995年阪神大震災や2011年東日本大震災でも報告がありました。防災デジタルサイネージを配備し、多言語の情報掲示をすることを前項と併せて検討する必要があります。</p>	<p>多様な情報提供手段、多言語による情報提供については重要であると認識しております。</p> <p>ご意見として、より有効な災害情報の収集・伝達手段の検討の参考にさせていただきます。</p>

No.	意見者	該当箇所	意見内容	区の考え方
26	その他計画等に利害関係を有する者1	<p>II 計画の概要</p> <p>4 施策の目標と取組み</p> <p>避難者数減少への施策目標</p> <p>11 高層住宅における防災対策の推進</p>	<p>「千代田区の特性と課題」(p 3)に指摘されている通り、千代田区は地区内残留地区であり、災害時には高層マンション内に滞留する住民が多数を占める。その際、地上に設置されている千代田区防災行政無線は屋内で聴取不能であることが強く推認される。</p> <p>現在、千代田区は280MHzデジタル防災同朋無線システムを導入しているが、その配布数は非常に限定的であり、かつその実効性についての検証が情報公開されていません。この端末をマンションに対する情報提供の手段として配布拡大するのが最適と判断されているのかが読み取れません。</p> <p>インターネットや携帯電話網を用いたシステムは、特に災害直後の高層マンションでは、通信機器の障害や局地的な電源トラブルが随所で同時多発する影響で使用不能となり、原因の特定と復帰作業に着手するまでに時間を要することが強く懸念されます。放送波を用いたV-A-L-E-R-Tはマンションにおける既存のテレビアンテナ回線を用いた共聴受信も可能なことから、その事態の保険・補完の代替手段として整備するには比較的ハードルが低く、マンション住民に対して防災情報を千代田区から直接提供する手段として整備推進すべきではないでしょうか。</p>	<p>災害時の迅速かつ正確な情報伝達については重要であると認識しております。</p> <p>ご意見として、より有効な災害情報の収集・伝達手段の検討の参考にさせていただきます。</p>

No.	意見者	該当箇所	意見内容	区の考え方
27	在住者 14	<p>II 計画の概要</p> <p>4 施策の目標と取組み</p> <p>避難者数減少への施策目標</p> <p>11 高層住宅における防災対策の推進</p>	<p>【建築物の超高層化に伴う災害対策の視点が欠落している】</p> <p>①2015年3月2日、午前8時30分過ぎ、千代田区西神田2丁目の高層集合住宅の20階付近から出火。この建物は25階建ての区営住宅で、保育所などが併設されていたと言います。当時のNHKニュースによると、ヘリコプターや消防車が出て消火活動に従事、園児や職員は避難して無事だったと言いますが、改めて超高層ビルの火災の怖さを見せつけられました。</p> <p>②2015年2月21日にはドバイの79階建ての超高層高級マンション「ザ・トーチ」で火災が発生、少なくともビルの数階が炎に包まれたと言います（CNN報道）。</p> <p>③2017年6月14日には、ロンドンの高層（24階建て）住宅「グレンフェル・タワー」で火災が発生、消防車40台、消防士約200人が出動し、鎮火するまでには24時間以上かかりました。死者は少なく見積もっても79人。不法入国した移民も多く、英国紙「ガーディアン」の報道によれば、死者120人以上。</p> <p>④東日本大震災と福島第一原発事故の際にも明らかになりましたが、災害は想定しない形でやってきます。もしも、仮に、ロンドン「グレンフェル・タワー」と同様の火災が千代田区内で発生したとした場合、消防車40台が出動できるようなスペースが前面道路にとれるのかどうか。道路幅員が大きい大手町では可能でしょうが、前面道路幅員が15m程度の場所で</p>	<p>防災計画策定の促進や訓練の支援等高層住宅における防災対策を進めてまいります。</p> <p>また、まちづくりに関するご意見は、今後の参考にさせていただきます。</p>

No.	意見者	該当箇所	意見内容	区の考え方
			<p>は到底不可能です。</p> <p>⑤ちなみに現在、日本でいちばん高いはしご車は愛知県岡崎市などにあつて、高さは 54m。東京消防庁のはしご車は最も高いものでも高さ 41m です。</p> <p>⑥はたして高層ビルはスプリンクラーなどが充実しているから大丈夫だと言えるのでしょうか。ドバイでは、2012 年に 2 つ超高層ビルで火災があり、その結果、ドバイ市はアルミニウム合成パネル（ACP）の新築ビルへの使用を禁じ、既存のビルに対しては防火パネル補強とスプリンクラーの設置を義務付けました。にもかかわらず、2015 年 2 月 21 日の 79 階建て超高層高級マンション「ザ・トーチ」の火災が発生しました。スプリンクラーがあるから大丈夫とは決して言いきれないことを物語っています。</p> <p>⑦千代田区災害対策事業計画策定に際しては是非とも建築物の超高層化に伴う災害対策の視点を入れて頂きたい。とくに前面道路幅員がじゅうぶんでない地区での超高層化については、これを認めないで頂きたい。</p>	
28	在住者 15	<p>II 計画の概要</p> <p>4 施策の目標と取組み</p> <p>避難者数減少への施策目標</p> <p>11 高層住宅における防災対策の推進</p>	<p>マンションエレベーターにおける非常食などの防災セットの設置義務の要望。</p> <p>地震でエレベーターが停止した場合に千代田区内のエレベーター数は多く復旧までにかかなりの時間を要す。閉じ込められたまま一夜をあかす場合や気づかれずにいる場合も必ずあるので、エレベーター設置のマンションには防災キットの設置義務が必要である。以上</p>	<p>マンションにおける、エレベーター非常用備蓄キャビネットの設置については重要であると認識しており、まちみらい千代田と連携し推進してまいります。</p>

No.	意見者	該当箇所	意見内容	区の考え方
29	在住者 16	<p>II 計画の概要</p> <p>4 施策の目標と取組み 避難者数減少への施策目標</p> <p>12 ライフラインの早期復旧</p>	<p>千代田区が区民に対し積極的に災害対策に関する啓蒙活動を行なっている事をまずは感謝申し上げます。特に夜間人口と昼間人口の大きな落差による千代田区特有の問題に光を当てておられることは当然とは言え、重要な点であると思います。一住民として、区外からの通勤者に対する緊急時のサポートをどうするか？ 考えておくべき課題と思いました。</p> <p>さて、災害時の混乱は人口(昼間人口であれ、夜間人口であれ)とインフラの落差によるものが大きいと思います。人口の集中を防ぎ、危険を分散化させる事を広い単位で考えるべきかと思います。地域創生は災害対策にも繋がるはずで、東京の一極集中を防ぐ手立てを区のみならず、都や国とも連携して検討いただきたいと思います。また、身近な問題では、電柱の地中化が重要ではないかと思います。停電リスクの低減化、電柱倒壊による人的・物的被害の減少に繋がると考えます。</p>	<p>災害時におけるライフラインの早期復旧は重要であると認識しております。</p> <p>災害時における電力の安定供給のため、電線の地中化を計画的に推進してまいります。</p>
30	<p>その他計画等に利害関係を有する者 1</p>	<p>II 計画の概要</p> <p>4 施策の目標と取組み 避難者数減少への施策目標</p> <p>13 情報提供手段の充実</p>	<p>昨今の災害における教訓を踏まえ、防災行政無線充実強化において、戸別受信機ないしこれに準じるものを整備することを具体的に数値目標化するべきである。その際、千代田区の特性に鑑みて、世帯への貸与のみならず、区内事業所への購入補助などを含め、幅広く対象を設定するべきであると考えます。</p> <p>屋外におけるサイネージ等の情報提供機器設置にあたっては、緊急時には区内事業者が駆けつけて迅速に保守することが可能なシステムを比較検討・導入するべきであると考えます。</p>	<p>災害時の多様な情報伝達については重要であると認識しております。</p> <p>ご意見として、より有効な災害情報の収集・伝達手段の検討の参考にさせていただきます。</p>

No.	意見者	該当箇所	意見内容	区の考え方
31	その他計画等に利害関係を有する者 1	II 計画の概要 4 施策の目標と取組み 避難者数減少への施策目標 13 情報提供手段の充実	デジタル防災行政無線屋外拡声子局を用いて音声のみで多言語の放送を「日本→英語→中国語…」と繰り返し行うことは、逆に日本人にとっては、緊急情報が迅速に得る機会を減らすことにもなりかねず、かつ必ずしも母国語でない英語を聞きとる必要のある国の出身者にとっては、屋外拡声器の聞き取り難さの指摘と相まって難易度が高いものです。音声配信と同時にデジタルサイネージなどには文字情報掲示可能である特性を有するV-A-L-E-R-T等の方式も併せて検討していただき、多言語の「文字と音声」併用で、複数の外国言語をほぼ同時に提示が可能なシステムを検討するべきではないでしょうか。	多様な情報提供手段、多言語による情報提供については重要であると認識しております。 ご意見として、より有効な災害情報の収集・伝達手段の検討の参考にさせていただきます。
32	在住者 12	II 計画の概要 4 施策の目標と取組み 風水害による人的・物的被害の最小限化のための施策目標 18 風水害対応力の強化	◆近隣ビルの非常階段の解放 水害等に対しては頑丈なビルの上に登れると安心できる。そのためには、平常時は施錠されている近隣ビルの非常階段の緊急利用をどのように行うかの研究が急がれる。警備員等が常駐しているビルに協力を求めてほしい。	水害時の避難行動についての普及啓発を行ってまいります。 ご意見として、避難手段の検討の参考にさせていただきます。